

岩井製菓社長 岩井正和さん (52)

—きょうと—



「京都市に引けを取らないくらい
の深い歴史があり、文化、食、歴史
がコンパクトに集約された見どころ
ある街なんです」。宇治川沿いの飴
工房・岩井製菓の2代目社長、宇治
観光土産品組合理事長として、生ま
れ育った宇治の魅力を発信すべく日
夜駆け巡る。

幼いころから創業者である父の飴
づくりを目の当たりにしてきたが、
大学卒業後はIT関係企業に就職。
若手部門で全国1位として表彰され
るなどエリート営業マンの道を進ん
でいた。

飴は幸せ届ける名脇役

「宇治土産ギフト」地元の魅力発信



しかし入社4年目の秋、体調を崩し会社を休職。空いた時間を埋めようと、実家で取引先の商店に飴を配

達する作業を手伝った。

「問屋は仕入れるところがないと何もできない。お父さんがやってきたことを継いでくれ」。取引先の主人が発した言葉で、その後の人生が決まる。

26歳で岩井製菓に入社。「一粒だ

いわい・まさかず 昭和45年、宇治市生まれ。大阪電気通信大卒業後、情報システムの構築事業などを行うオービックに入社し、営業を担当した。退職後、実家の岩井製菓で社員として製造や営業の経験を培い、平成17年に社長就任。ウェブでの情報発信にも力を入れ、YouTubeに開設した同社のチャンネル登録者は13万人を超える。令和2年3月からは宇治の土産店などでつくる宇治観光土産品組合の理事長を務め、宇治の魅力発信に力を入れている。

けでも幸せを届ける名脇役になれる」と飴の持つ力を知るとともに、客からの「おいしい」との声に、改めて父が担ってきた家業の尊さを痛感した。前職の経験やノウハウをいかし、ネット事業に力を入れ販路拡大に成功。入社10年を前に、売り上げは入社時の約15倍にも増加した。社長就任後も動画投稿サイト「YouTube」にチャンネルを開設。飴づくりの工程を紹介する動画は海外からも視聴され、再生回数は700万回を超える。

事業は順調かと思えたものの、新型コロナウイルス禍が本格化。平等院を中心に常ににぎわっていた地元が閑散とする様子に衝撃を受けた。苦境に立たされた組合員とともに、「宇治土産集合ギフト」の販売を企画。中元や歳暮の品として組合に所属する菓子店などの商品の詰め合わせは、これまでの6回の販売で1万個以上を売り上げ、宇治の観光業界を救う一筋の光となった。

「観光地・宇治が前を向いて進んでいるところを伝えていきたい」。ピンチでも為せば成る—との教訓を胸に前を見据える。(木下倫太郎)